

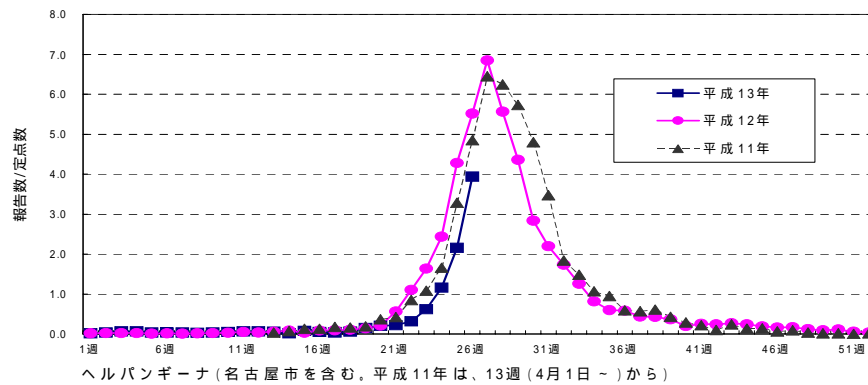
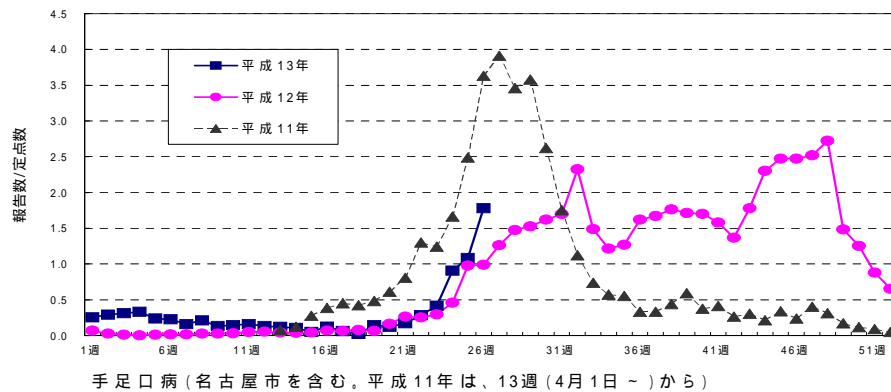
# 愛知県感染症情報

## 平成 13 年第 26 週（6 月第 4 週）

（コメント）

手足口病、ヘルパンギーナは流行中です。これらの疾病は、夏に向けてこれからピークをむかえるので十分注意してください。

伝染性紅斑は、尾張北部の地域で報告が多いようです。咽頭結膜熱及び流行性耳下腺炎は、依然昨年より多い状況が続いています。



（定点の先生方からのコメント）

### ● 尾張西部地区

- ・ 高熱（39）の児多いです。水痘 2 例、ワクチン歴あり  
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 手足口病流行（1 例、溶連菌感染も併発）  
（一宮市 後藤小児科）
- ・ 病原性大腸菌検出者（O1 1 歳男 2 名、O168 3 歳男）  
手足口病及び伝染性紅斑が多くなりました。  
（尾西市 城後小児科）
- ・ 手足口病、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑多発続発中。咽頭結膜熱  
散発。水痘もあり。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

- ・ 手足口病、ヘルパンギーナなどの夏かぜが増加してきました。水痘、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑の小流行続いています。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

● 尾張東部地区

- ・ 17歳の麻疹は予防接種済みで、日進の高校で流行している。プール熱も多いが、アデノチェック陽性の扁桃炎も多い。ヘルパンギーナ増加。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ ヘルパンギーナ急増(発熱は2日程度の症例がほとんどです)。手足口病、水痘も増加傾向です。アデノウイルス感染症も流行続いています(高熱が持続する例多いです)。

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ カンピロバクター感染性腸炎1名。

(豊明市 豊明団地診療所)

- ・ 咽頭結膜熱、家族内発生がみられる。例年に比較して同疾患が多い。

(長久手町 スズムラ眼科医院)

- ・ 水痘とムンプスの流行が続いています。ヘルパンギーナ多くなりました。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ 今週はヘルパンギーナが急増しました。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ ヘルパンギーナ流行。

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ 夏かぜが増えてきました。 水痘7歳女 水痘ワクチン済み  
病原性大腸菌 O25 VT1・2(-) 1歳男

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ カンピロバクター腸炎 7歳女

(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)

- ・ サルモネラ sp. 09

*E. Coli* 018 4歳男。伝染性紅斑小流行

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ 水痘 7歳男 平成9年にワクチン接種、弟より感染、軽症。

(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)

- ・ 麻疹の2歳は前回の第ワクチン未接種。百日咳の2例は兄弟でワクチン未接種、姉の方は2週間前からレプリーゼ(2+)もう1人の兄弟はDPT2回接種で症状なし。  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ ヘルパンギーナが増えてきました。  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ カンピロバクター 11歳男  
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 病原性大腸菌 O152 VT1・2(-) 18歳女  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 手足口病、ヘルパンギーナが増加  
幼児から学童で発熱、嘔吐を訴える胃腸炎が目立ちます。  
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ ヘルパンギーナ増加中  
(知立市 宮谷こどもクリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 3歳女  
(三好町 三好町立三好病院)

● 東三河地区

- ・ 夏風邪で解熱後発疹が出るケースが時々ある。幼稚園で咽頭結膜熱が流行中。手足口病の2人は四日市の子です。ヘルパンギーナで熱性けいれんの子が2名あり。カンピロ腸炎男児あり。  
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ 今週も高熱児が目立つ。全身に発疹を伴う例もあり。伝染性紅斑、散発している。  
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者1名

- ・ 豊田市保健所から報告の18歳男。6/19発病、6/19初診、6/27診定。菌型は、O157 VT1・2(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

- ・ 急性ウイルス肝炎A型患者1名。
- ・ 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)の無症候性キャリア1名

#### 第 24 週（6 月 11 日～6 月 17 日）の 4 類感染症の全国状況

麻疹は過去 5 年間の同時期と比較して定点当たり報告数が多い状態が続いており、都道府県別では沖縄県 1.4、宮崎県 1.3 などの報告がある。流行性耳下腺炎は、最近 10 年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が続いており、福井県 7.0、福岡県 4.3、佐賀県 4.2 などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近 10 年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が 2000 年第 41 週から続いており、夏の本格的なシーズンに向けて増加中である。都道府県別では滋賀県 0.9、山口県 0.8、愛知県 0.6 などの報告がある。伝染性紅斑、流行性角結膜炎などの定点当たり報告数は、過去 5 年間の同時期と比較してやや多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋）

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

2001年5月18日号(76巻20号)

リンパ系フィラリア症。蚊によって媒介される寄生虫症。リンパ管系に寄生してリンパ流の鬱滞から象皮病、陰嚢水腫などを発症、局所の感染を反復。血中に放出された子虫が蚊によって伝播。現在世界の熱帯・亜熱帯地区で1.2億の感染者があり2500万例が陰嚢水腫、1500万例が象皮病などのリンパ系疾患に罹患している(地図あり:アフリカ全域と東南アジア、ブラジルを中心とした南米)。最近20年間で根絶の可能性が見えてきた:安全性が確立された二剤同時一回投与で半年以上血中フィラリアの劇的な減少が可能となった。野外調査に有効な簡便で感度良好な末梢血検査(抗体検査)の開発と腹部超音波診断の応用。今後の目標の方針として常在地区から根絶、罹患者の治療、がWHOではとりあげられている。

ケニアのマラリア:マラリア常存地である同国厚生省がマラリア情報網を発足した。

ハンセン病:多剤同時使用で治癒率が向上、診断率も良くなった現在、世界では6ヵ国(ブラジル、インド、マダガスカル、モザンビーク、ミャンマー、ネパール)が残された常在国であり、患者の調査と治療が緊急の課題となっている。

インフルエンザ:01年5月。オーストラリア(B型)、チリ(A型)。

01年5月11-17日届出。コレラ:ガナ、マダガスカル、モザンビーク、インド、黄熱:ガナ。

2001年5月25日号(76巻21号)

インフルエンザ:香港の養鶏場におけるA型(H5N1)の発生。3養鶏業者から鶏の大量死の報告があり当局は監視体制をひいて鶏の移動を中止。現在のところヒトの感染例はなく、A(H5N1)が分離されたが以前97年に流行した株とは異なっている。

髄膜炎菌W135型(この数年間、常存地や常存地から欧米への輸入例でみられている型)。5月16日時点で報告はブルキナファソ、中央アフリカ、デンマーク、フランス、ノルウェー、サウジアラビア、シンガポール、英国)。

ポリオ根絶。西・中央アフリカ:ポリオ根絶計画の進展にもかかわらずいまだにポリオ野生株が分離され急性弛緩性麻痺(AFP)が発生している西・中央アフリカ16ヵ国の1999年-2000年の状況のまとめ。1歳までにポリオ生ワクの3回接種終了者は48%(12%-90%)。AFP発生数は2000年に879、野生株分離陽性例は41例、適切なウイルス検査材料はAFPの37-84%から収集。ポリオ生ワク一斉接種日の国際化:2000年10月-11月に国境を接している各国で一斉接種が実施されるようになった。ポリオ根絶のためこうした努力がはらわれている。

インフルエンザ(01年5月):アルゼンチン、香港、ノルウェー。いずれもA型(H1N1、H3N1)とB型の混合流行。

01年5月18-24日届出。コレラ:ブラジル、エクアドル、エルサルバドル、ガテマラ、メキシコ、ニカラガ、ペルー、ベネゼラ。黄熱:リベリア。

平成13年7月5日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

この数日間の酷暑の町を歩いているとインド・ヒンドスタン平原の夏を思い出します（40をこえる毎日でした）。何もする気にならずに、ポケッとしていたものです。所でいつも貴重な情報を有難うございます。6月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：市内各地区で家族単位、学級単位で麻疹が小規模発生を繰り返しています。ほぼ全例がワクチン未接種者で成人麻疹もみられ、高校でも発生しています。要入院例も目立っています（名鉄病院宮津先生、第一日赤有吉先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。大同・水野先生が成人麻疹対策として未罹患・未接種成人に接種を開始してみえます。手足口病・ヘルパンギナスの発生が各地区で見られるようになり、無菌性髄膜炎による入院も目立つようになりました（名鉄・宮津先生、第一日赤有吉先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災・山田先生）。伝染性紅斑が地域によって差がありますが全市的に流行、アデノウイルスによる発熱例（高熱、肺炎気管支炎、消化器症状で要入院例目立つ）、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎なども各地区で発生しています（名鉄・宮津先生、第一日赤有吉先生、国立病院伊藤先生、城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生）。その他、感染性胃腸炎（千種区今枝先生）、EBウイルス感染症（国立・伊藤先生、労災・山田先生）、川崎病（第一日赤有吉先生）などのお手紙でした。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは水痘、ムンプス、手足口病、ヘルパンギナ、伝染性紅斑が散発中、江南市昭和病院西村先生からは手足口病と咽頭結膜熱目立つ、常滑市民病院上田先生からはヘルパンギナ、手足口病、伝染性紅斑、溶連菌感染症が目立ち手足口病と異なる全身の発疹症あり、ムンプス髄膜炎、重症水痘、麻疹の入院例が目立ちブ菌性火傷様皮膚症候群1例入院とのお手紙です。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは熱と咳があるCRP弱陽性患児が目立ち、肺炎（マイコプラズマを含む）、咽頭炎の入院あり、岡崎市民病院系洲先生からは手足口病と無菌性髄膜炎、知立市近藤先生からはムンプス、手足口病、ヘルパンギナが流行中でカンピロバクタ腸炎1例、病原性大腸菌感染症2例あり、伝染性紅斑、溶連菌感染症の散発が続いている、刈谷市田和先生からは手足口病、ヘルパンギナ、咽頭結膜熱の他に3-4日の高熱の感冒や37台の熱に頭痛、嘔吐を伴う例あり、ムンプス多発中で伝染性紅斑散発、碧南市永井先生からは幼児学童の溶連菌感染症多く、ヘルパンギナ流行中、豊橋市からはムンプス、ヘルパンギナ、咽頭結膜熱が発生している。